

魚沼コシヒカリ産地の維持発展に向けて
令和8年産米 コシヒカリ重点技術対策

◎目標:1等米比率:90%以上 収量:510kg/10a 玄米タンパク質含有率 6.0%

異常高温下でも収量・品質を確保する重点技術対策の確実な実施

— 令和8年 最重点課題 —

- ①生育診断に基づく穂肥の確実な施用で後期栄養確保
- ②登熟向上のための飽水管理で後期栄養維持
- ③カメムシ斑点米等の病虫害防除の徹底



異常高温下の作業環境悪化、労力不足…

作業補完体制の構築を推進

- ①スマート農業等活用（ドローン防除、施肥など）
- ②省力技術の導入検討

7つの重点技術対策

異常気象に強い稲づくり

1 気象変動に対応できる土づくりの実施と根域の確保

- (1) 土壌診断に基づく堆肥や土づくり資材(特にケイ酸、鉄)の施用による地力維持・向上
- (2) 稲わら、もみ殻等の有機物の秋すき込みの実施
- (3) 根域を広げ、根の健全な発達を促すため、耕深 15cm を目標に耕うん作業を実施

2 健苗育成とコシヒカリの品質確保が可能な作付計画、作期分散

- (1) 地域条件に合わせた5月中下旬を基本とした適期田植えの実施
- (2) 大規模経営体での播種時期、育苗様式等の組み合わせによるコシヒカリ作期拡大複数品種の作付による作期分散およびリスク軽減
- (3) 田植時期に合わせた浸種及び適期播種の徹底、
- (4) 弁当肥の施用による活着促進、活着着はやや浅水で初期生育を促進

3 適期中干しの実施（大柄にしないイネづくり）

- (1) 田植え後 25 日を目安に茎数を確認し目標穂数の 7～8 割を確保したら中干し開始（遅くとも田植え後 30 日までに開始し、本格的な梅雨になる前に実施する）
- (2) 溝切りは、迅速なかん水、地耐力の確保のため確実に実施
- (3) 中干しの強さは田面に小ヒビが入る程度とし、遅くとも出穂期の 1 か月前をめどに終了

裏面へ

品質の良い米づくり

4 生育診断に基づく穂肥の確実な施用で後期栄養確保（最重点①）

【分施肥系】

- ・ 1回目穂肥は生育診断を踏まえ施用、2回目穂肥は確実に施用
高温が続き出穂期の葉色が目標を下回ると予想される場合は3回目の追加穂肥を施用
- ・ 分施肥系で3回目の追加穂肥の対応が難しい場合は2回目の穂肥の増量を検討する。

【全量基肥一発体系】

- ・ 出穂期の葉色が目標を下回ると予想される場合は追加穂肥を施用
(特に有機入り全量基肥肥料は穂肥成分が不足するので追加穂肥を前提に施肥設計する)

※分施肥系、全量基肥体系いずれも追加穂肥は速効性の肥料を施用する(特裁米以外)。

5 登熟向上のための飽水管理で後期栄養維持（最重点②）

- ・ 中干し終了後は、限りある用水を有効利用する飽水管理を徹底し、高温時の地温上昇を抑え根の健全化をはかる。
- ・ 落水期は出穂期 25 日後以降とする。

・ 輪番、番水など、地域の水管理体制を確認し、こまめな水管理ができるよう準備

6 カメムシ斑点米等の病虫害防除の徹底（最重点③）

- (1) 斑点米カメムシ類：農道畦畔及び水田内の雑草管理の徹底。
適期薬剤防除、ドローン等を利用した液剤防除体制の整備と利用推進
- (2) 葉いもち：コシヒカリ BL は、育苗箱施用剤等による葉いもち防除を必ず実施

7 適期収穫と適正乾燥・調製の徹底

- (1) 黄化籾割合 85～90%を確認し適期収穫。収穫のピークが収穫適期になるよう収穫開始
※高温登熟年は品質低下防止のため早めに収穫を開始する。
- (2) 籾水分に応じた乾燥温度を設定し、胴割粒の発生や過乾燥を防止する。
- (3) 適正流量による丁寧な調製、色彩選別機を活用した整粒歩合の向上

作業補完体制の構築

スマート農業等の活用（まずはドローンの防除、施肥の利用拡大）

- (1) カメムシ斑点米対策 ドローンを活用した面的な液剤体系を推進
- (2) 穂肥での利用 省力的な施肥技術としてドローン散布を推進
- (3) 体制整備に向けた情報共有推進
- (4) 今後の導入に向け、直播等の省力技術についても情報共有を推進

【魚沼地域農業振興協議会】

魚沼市、魚沼市農業委員会、魚沼農業協同組合、
新潟県農業共済組合魚沼支所、魚沼市土地改良区、
魚沼地域振興局農業振興部

【お問い合わせ先】

J A 魚沼北魚沼基幹営農センター 793-1770
魚沼地域振興局農業振興部 792-1309